Oriental Land Co.,Ltd.

2015年3月期　決算説明会

2015年4月28日
株式会社オリエンタルランド

Oriental Land Co.,Ltd.

Ⅰ. 2015年3月期 決算概要

執行役員　経理部長
吉田 謙次

1. 当期実績(前期比較)

当期	2014/3 実績 (億円)	2015/3 実績 (億円)	増減 (億円)	増減率
売上高	4,735	4,662	△ 72	△ 1.5%
テーマパーク事業	3,909	3,876	△ 32	△ 0.8%
ホテル事業	649	610	△ 38	△ 6.0%
その他の事業	177	176	△ 1	△ 0.7%
営業利益	1,144	1,106	△ 38	△ 3.4%
テーマパーク事業	971	956	△ 14	△ 1.5%
ホテル事業	158	131	△ 27	△ 17.4%
その他の事業	12	16	3	27.1%
経常利益	1,126	1,104	△ 21	△ 1.9%
当期純利益	705	720	14	2.1%

東京ディズニーリゾート30周年の翌年により、営業減益

1. 当期実績(前期比較) - 主な増減要因

テーマパーク事業①	2014/3 実績	2015/3 実績	増減	増減率
売上高	3,909億円	3,876億円	△ 32億円	△ 0.8%
入園者数	3,130万人	3,138万人	8万人	0.3%
ゲスト1人当たり売上高	11,076円	10,955円	△ 121円	△ 1.1%
チケット収入	4,598円	4,660円	62円	1.3%
商品販売収入	4,185円	4,043円	△ 142円	△ 3.4%
飲食販売収入	2,292円	2,252円	△ 40円	△ 1.7%

売上高の減

- 入園者数の増
  - ー東京ディズニーランドの「ワンス・アポン・ア・タイム」や「ジャングルクルーズ:ワイルドライフ・エクスペディション」などの新規プロダクトや、両パークのスペシャルイベントの好調により、過去最高
- ゲスト1人当たり売上高の減
  - ー東京ディズニーリゾート30周年関連商品の販売終了などによる減

ゲスト1人当たり売上高は減少したものの、入園者数は過去最高

1. 当期実績(前期比較) - 主な増減要因

テーマパーク事業②	2014/3 実績	2015/3 実績	増減	増減率
売上高	3,909億円	3,876億円	△ 32億円	△ 0.8%
営業利益	971億円	956億円	△ 14億円	△ 1.5%

営業利益の減

- 売上高の減
  - ー入園者数の増、ゲスト1人当たり売上高の減
- 商品原価率および飲食原価率の増　△25億円
- 固定経費・諸経費の増　△3億円
  - ー東京ディズニーリゾート30周年関連コストの減　+15億円
  - ーレジェンド・オブ・ミシカ終了などに伴う除却費の増　△14億円
  - ー大型投資案件に向けた費用　△5億円
- 減価償却費の減　+18億円

※ 人件費は、ほぼ前期並み

＊ コストにおける△表示は、営業利益に対するマイナスの影響を示しております。

売上高の減少およびコストの増加により減益

1. 当期実績(前期比較) - 主な増減要因

ホテル事業	2014/3 実績	2015/3 実績	増減	増減率
売上高	649億円	610億円	△ 38億円	△ 6.0%
営業利益	158億円	131億円	△ 27億円	△ 17.4%

- 東京ディズニーリゾート30周年の翌年による売上高の減少(宿泊圏ゲストの減少など)

客室稼働率一覧

＊ 平均客室単価は、「決算補足資料」4ページをご覧ください

東京ディズニーランドホテル		東京ディズニーシー・ホテルミラコスタ		ディズニーアンバサダーホテル	
2014/3実績	2015/3実績	2014/3実績	2015/3実績	2014/3実績	2015/3実績
90%台後半	90%台半ば	90%台後半	90%台後半	90%台後半	90%台半ば

売上高の減少などにより減益

その他の事業	2014/3 実績	2015/3 実績	増減	増減率
売上高	177億円	176億円	△ 1億円	△ 0.7%
営業利益	12億円	16億円	3億円	27.1%

イクスピアリ事業の固定経費・諸経費の減少などにより増益

1. 当期実績(前期比較) - 主な増減要因

当期純利益	2014/3 実績	2015/3 実績	増減	増減率
営業利益	1,144億円	1,106億円	△ 38億円	△ 3.4%
営業外収益	27億円	25億円	△ 2億円	△ 7.5%
営業外費用	45億円	26億円	△ 19億円	△ 41.7%
経常利益	1,126億円	1,104億円	△ 21億円	△ 1.9%
法人税等	420億円	384億円	△ 36億円	△ 8.7%
当期純利益	705億円	720億円	14億円	2.1%

営業外費用の減

・社債償還損の減　　+27億円
・固定資産除却損の増　　△10億円

当期純利益の増

・法人税等の減

営業利益の減少幅が小さい中、法人税等の減少などで、当期純利益は過去最高

2. 当期実績(10月発表予想比較)

当期	2015/3 10月発表予想 (億円)	2015/3 実績 (億円)	増減 (億円)	増減率
売上高	4,534	4,662	128	2.8%
テーマパーク事業	3,764	3,876	111	3.0%
ホテル事業	597	610	13	2.3%
その他の事業	173	176	2	1.7%
営業利益	1,017	1,106	88	8.7%
テーマパーク事業	880	956	75	8.6%
ホテル事業	123	131	8	6.7%
その他の事業	11	16	4	38.2%
経常利益	1,029	1,104	75	7.3%
当期純利益	673	720	46	7.0%

＊ 詳細は、「決算補足資料」5～6ページをご覧ください

テーマパーク事業の好調により増収増益

3. 業績推移

連結売上高・営業利益率の推移

連結営業利益・当期純利益の推移

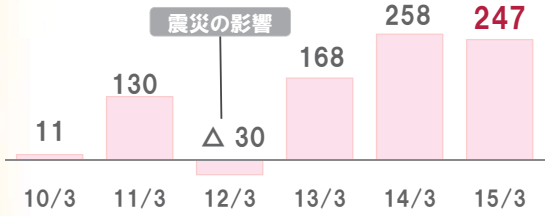
売上高・営業利益は前期に次いで過去2番目、当期純利益は過去最高

3. 業績推移

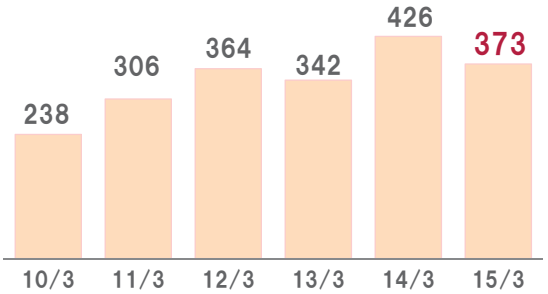
四半期別営業利益（連結）の推移

（億円）

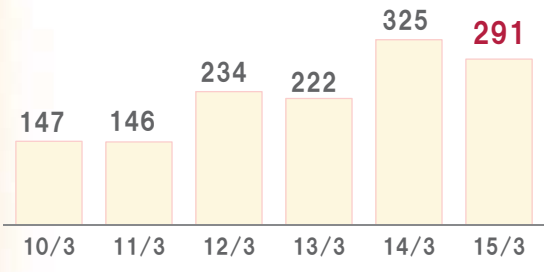
1Q営業利益



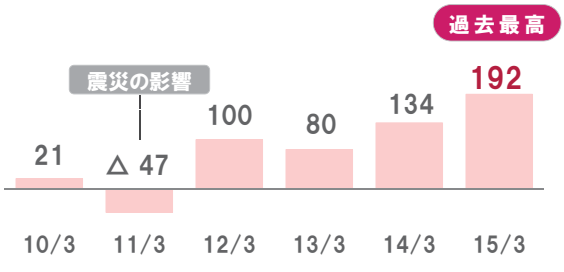
3Q営業利益



2Q営業利益



4Q営業利益



第1～3四半期は前年同期に次いで過去2番目、第4四半期は過去最高

Oriental Land Co.,Ltd.

II. 2016年3月期 業績予想

1. 2016年3月期予想(前期比較)

通期予想	2015/3 実績 (億円)	2016/3 予想 (億円)	増減 (億円)	増減率
売上高	4,662	4,703	40	0.9%
テーマパーク事業	3,876	3,906	30	0.8%
ホテル事業	610	622	11	1.9%
その他の事業	176	174	△ 2	△ 1.2%
営業利益	1,106	1,060	△ 45	△ 4.1%
テーマパーク事業	956	920	△ 36	△ 3.8%
ホテル事業	131	125	△ 5	△ 4.2%
その他の事業	16	13	△ 2	△ 18.3%
経常利益	1,104	1,073	△ 31	△ 2.9%
当期純利益	720	722	1	0.2%

売上高は前期を上回るものの、営業減益となる予想

1. 2016年3月期予想(前期比較) - 主な増減要因

テーマパーク事業①	2015/3 実績	2016/3 予想	増減	増減率
売上高	3,876億円	3,906億円	30億円	0.8%
入園者数	3,138万人	3,040万人	△ 98万人	△ 3.1%
ゲスト1人当たり売上高	10,955円	11,360円	405円	3.7%
チケット収入	4,660円	4,980円	320円	6.9%
商品販売収入	4,043円	4,090円	47円	1.2%
飲食販売収入	2,252円	2,290円	38円	1.7%

売上高の増

- 入園者数の減
  - ー初期需要が特に高かった「ワンス・アポン・ア・タイム」や「アナとエルサのフローズンファンタジー」が2年目となることによる入園者数の減
- ゲスト1人当たり売上高の増
  - ー チケット価格改定などによるチケット収入の増

入園者数は減少するものの、ゲスト1人当たり売上高の増加により増収

1. 2016年3月期予想(前期比較) - 主な増減要因

テーマパーク事業②	2015/3 実績	2016/3 予想	増減	増減率
売上高	3,876億円	3,906億円	30億円	0.8%
営業利益	956億円	920億円	△ 36億円	△ 3.8%

営業利益の減

- 売上高の増
  - ー 入園者数の減、ゲスト1人当たり売上高の増
- 商品原価率および飲食原価率の増　　約△15億円
- 人件費の減　　約+15億円
- 固定経費・諸経費の増　　約△60億円
  - ー 大型投資案件に向けた費用　　約△40億円
  - ー 快適な環境づくりに向けた整備費用　　約△10億円　など
- 減価償却費の増　　約△20億円

売上高は増加するものの、コストの増加により減益

1. 2016年3月期予想(前期比較) - 主な増減要因

ホテル事業	2015/3 実績	2016/3 予想	増減	増減率
売上高	610億円	622億円	11億円	1.9%
営業利益	131億円	125億円	△ 5億円	△ 4.2%

・ 客室改装などに伴う固定経費・諸経費の増

客室稼働率一覧

＊ 平均客室単価は、「決算補足資料」8ページをご覧ください

東京ディズニーランドホテル		東京ディズニーシー・ホテルミラコスタ		ディズニーアンバサダーホテル	
2015/3実績	2016/3予想	2015/3実績	2016/3予想	2015/3実績	2016/3予想
90%台半ば	90%台後半	90%台後半	90%台前半	90%台半ば	90%台前半

コストの増加により減益

その他の事業	2015/3 実績	2016/3 予想	増減	増減率
売上高	176億円	174億円	△ 2億円	△ 1.2%
営業利益	16億円	13億円	△ 2億円	△ 18.3%

モノレール事業の売上高の減少などにより減益

Oriental Land Co.,Ltd.

III. 2016中期経営計画の進捗状況

代表取締役社長 (兼) COO
上西 京一郎

2023ありたい姿

テーマパーク価値の最大化に向けた投資

引き続き、キャストのホスピタリティ向上を図るとともに、以下の投資を実施

テーマパーク事業への投資規模（2014～2023年度合計） 5,000億円レベル

投資の方向性

東京ディズニーランド	•「ファンタジーランドの再開発（刷新・拡張）」 •その他新規プロダクト投資	オンステージ投資 4,000億円レベル （価値向上に向けた投資 2,500億円レベル 更新改良投資 1,500億円レベル）
東京ディズニーシー	•ロストリバーデルタ南側エリアにおける「新テーマポートの開発」 •その他新規プロダクト投資	
2パーク共通	•スペシャルイベントの展開 •快適な環境づくりに向けた整備 •更新改良（インフラ整備含む） 等	
バックステージ	•サポート機能を含めた運営基盤の更なる強化 等	バックステージ投資 1,000億円レベル

「テーマパーク価値向上への大きなインパクト」と「キャパシティの向上」を目指す

2023ありたい姿

両パークの大規模開発構想

東京ディズニーランド「ファンタジーランドの再開発（刷新・拡張）」		東京ディズニーシー「新テーマポートの開発」	
概要	大型アトラクション、商品店舗、飲食店舗等、複数の施設からなるファンタジーランド全体の再開発	概要	大型アトラクション、商品店舗、飲食店舗等、複数の施設からなる新テーマポートの開発
テーマ	ディズニー映画「美女と野獣」、「ふしぎの国のアリス」等をテーマとした複数のエリアで構成	テーマ	「北欧」をテーマとした新テーマポート ※ディズニー映画「アナと雪の女王」の世界を体験できるエリアも含む
導入時期	2017年度以降	導入時期	2017年度以降
開発エリア	現在のファンタジーランド全域（刷新）、およびトゥモローランド、駐車場、バックステージの一部（エリア拡張） ※現在のファンタジーランドが約2倍となる規模	開発エリア	ロストリバーデルタの南側に隣接する拡張用エリア ※アラビアンコーストとほぼ同規模

2015年中に、エリアの詳細を発表予定

東京ディズニーランド 「ファンタジーランドの再開発」イメージ

「美女と野獣」をテーマとしたエリア

©Disney

※ 現時点での構想段階のものです。今後変更になる場合があります。

東京ディズニーランド 「ファンタジーランドの再開発」イメージ

「ふしぎの国のアリス」をテーマとしたエリア

©Disney

※ 現時点での構想段階のものです。今後変更になる場合があります。

東京ディズニーシー「新テーマポートの開発」イメージ

「北欧」をテーマとした新テーマポート

©Disney

※　現時点での構想段階のものです。今後変更になる場合があります。

※ 現時点での構想段階のものです。今後変更になる場合があります。

2016中期経営計画の全体構成

目標値 ： 営業キャッシュ・フロー*3年間で2,800億円以上

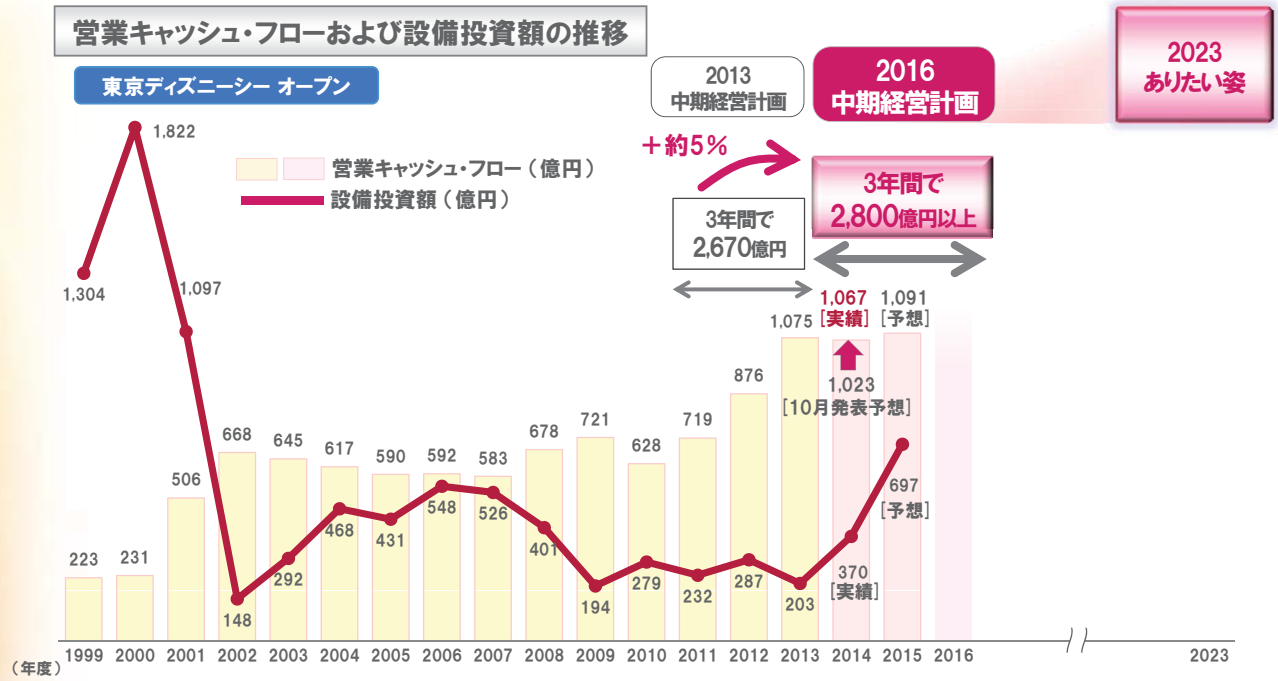
「2023ありたい姿」に向けて、コア事業の大型投資および新規事業投資の原資となる営業キャッシュ・フローの最大化を目指す

1	コア事業の長期持続的な成長	・将来のマーケットの変化に応じた事業基盤の形成を図りながら、営業キャッシュ・フローの最大化を目指す ・「2023ありたい姿」に向けて、テーマパーク価値を最大化する大型投資案件を決定し、順次着手する
2	新規事業による更なる成長	・「2023ありたい姿」に向けて、舞浜エリア外で、将来的に収益貢献し得る事業について、研究・調査を推進する
3	財務方針	・営業キャッシュ・フローを企業価値向上のための投資に充当する

＊ 営業キャッシュ・フロー＝当期純利益＋減価償却費

目標値

営業キャッシュ・フローおよび設備投資額の推移



コア事業の拡充 → 営業キャッシュ・フローの成長 → ① コア事業の長期持続的な成長 ② 新規事業による更なる成長

コア事業の好調により、計画を上回って推移

1. コア事業の長期持続的な成長

コア事業戦略 概要

ターゲット

2023ありたい姿　**将来のマーケットの変化に応じた事業基盤の形成**

世代を超え、親子や夫婦など、あらゆる形態のファミリー

中高年層の人口増加 ▶ 取込み強化

- 子ども連れファミリー
- ニューエイジング（子どもが手を離れた中高年層）

訪日客の増加 ▶ 受入体制の整備

- 海外

戦略

ファミリーに向けたプロダクトの拡充や、より快適な環境づくりに向けた整備の実行

集客力の向上（入園者数） × 収益力の向上（単価）

（1）テーマパーク価値の向上	⇒ 26ページ
（2）平準化による入園者数の向上	⇒ 27ページ
（3）体験価値に応じた価格戦略	⇒ 28ページ
（4）海外ゲストの受入体制の整備	⇒ 29ページ

1. コア事業の長期持続的な成長

(1) テーマパーク価値の向上

主な新規プロダクトの概要

- **ワンス・アポン・ア・タイム**（投資額 約20億円）
  2014年5月29日スタート（プロジェクションマッピングを用いた新ナイトエンターテイメント）
- **ジャングルクルーズ：ワイルドライフ・エクスペディション**（投資額 約16億円）
  2014年9月8日オープン（新たなショー効果や音楽の導入）
- **メディテレーニアンハーバー新鑑賞エリア**（投資額 約25億円）
  2015年3月1日使用開始
- **キング・トリトンのコンサート**（投資額 約40億円）
  2015年4月24日スタート（映画『リトル・マーメイド』の世界を舞台にした新しいミュージカルショー）
- **東京ディズニーランド・エレクトリカルパレード・ドリームライツのリニューアル**（投資額 約20億円）
  2015年7月9日リニューアル予定（『塔の上のラプンツェル』をテーマにしたフロートの追加など）
- **スティッチ・エンカウンター**（投資額 約20億円）
  2015年7月17日オープン予定（スティッチとインタラクティブに会話し楽しめるシアタータイプのアトラクション）
- **ハンガーステージ：新ミュージカルショー**（投資額 未定）
  2016年春～夏スタート予定
- **ウエスタンランド新キャラクターグリーティング施設と併設の飲食施設**
  （飲食施設も含めた投資額 約30億円）2016年秋～冬オープン予定

東京ディズニーランド 新規プロダクト

東京ディズニーシー 新規プロダクト

テーマパーク価値の最大化に向けた大型投資案件等を決定し、順次着手

＊ 2015年4月28日時点で公表している計画のみを記載

2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
		東京ディズニーシー 15周年		東京ディズニーリゾート 35周年

2016中期経営計画

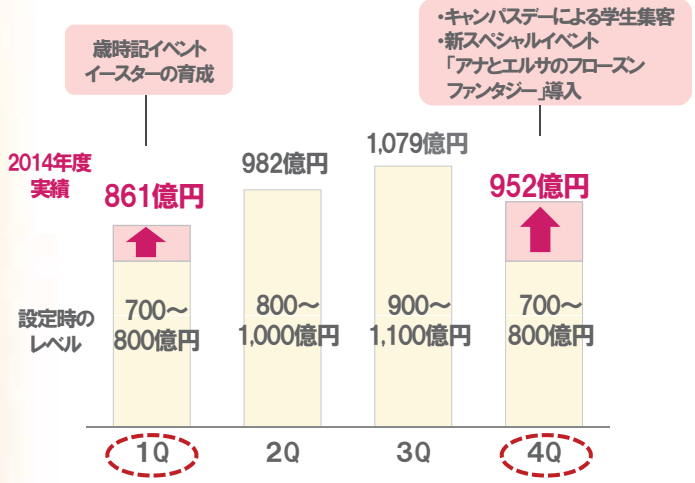
「2023ありたい姿」に向け、継続的にテーマパーク価値の向上を図る

(2) 平準化による入園者数の向上

1Q・4Qの入園者数の向上

スペシャルイベント等の展開とマーケティング活動の組み合わせによる集客力の向上

四半期別 テーマパーク事業 売上高



第1四半期

東京ディズニーランド/東京ディズニーシー
ディズニーイースター
（2015年4月2日～6月23日、83日間）
2015年度から東京ディズニーシーを加えた2つのパークで展開

第4四半期

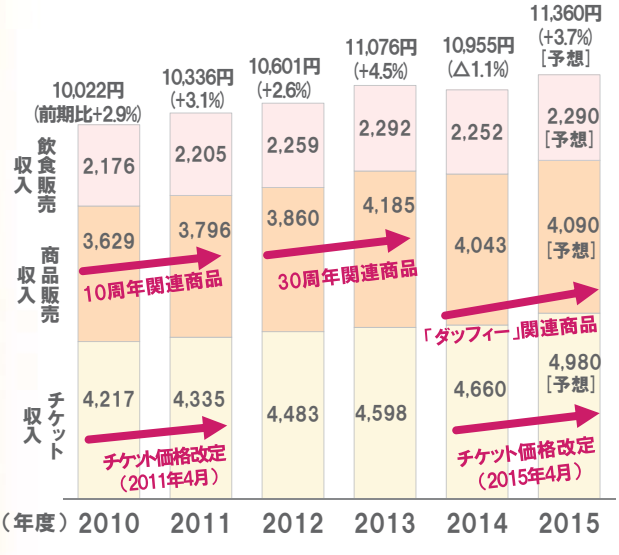
東京ディズニーランド
アナとエルサのフローズンファンタジー
（2015年1月13日～3月20日、67日間）
（2016年1月12日～3月18日、67日間）
大ヒットのディズニー映画『アナと雪の女王』をテーマにしたスペシャルイベントを開催

スペシャルイベントなどにより、第1・第4四半期の入園者数が大幅に増加

(3) 体験価値に応じた価格戦略

新たな価値創造や戦略的価格設定による単価の向上

ゲスト1人当たり売上高の推移



チケット収入の向上

チケット価格改定（2015年4月1日～）
1デーパスポート（大人）
6,400円 → 6,900円
テーマパーク価値の向上に合わせた全券種対象の価格改定は、2011年4月以来。

商品販売収入の向上

「ジェラトーニ」（2014年7月4日～）
4年ぶりに「ダッフィー」関連の新キャラクター投入

東京ディズニーシー
ジャーニー・ウィズ・ダッフィー Your Friend Forever
（2015年7月3日～2016年3月18日）
ミッキーとダッフィーが出会って10年目を記念するプログラム

テーマパーク価値の向上に伴い、チケット価格を改定

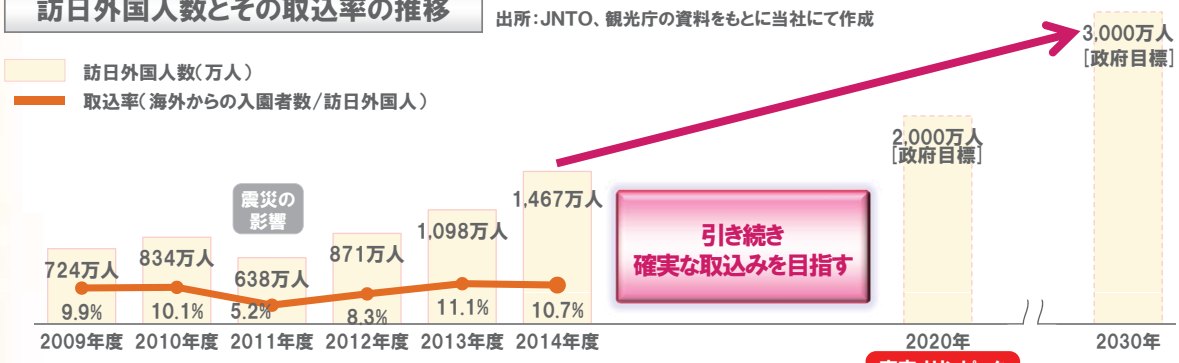
1. コア事業の長期持続的な成長

(4) 海外ゲストの受入体制の整備

満足度の向上	ハード・ソフト両面での受入れ体制を強化し、体験価値の向上を目指す
集客の強化	成長の見込まれる東南アジアを中心とした営業活動強化
	個人旅行の増加への対応として、Eチケットの販売を開始（2013年度から開始）

訪日外国人数とその取込率の推移

出所：JNTO、観光庁の資料をもとに当社にて作成



	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
当社テーマパーク海外ゲスト数（実績）	72万人	84万人	33万人	72万人	122万人	157万人
入園者数に占める海外ゲスト比率	2.8%	3.3%	1.3%	2.6%	3.9%	5.0%

海外ゲストは、台湾などアジアが中心

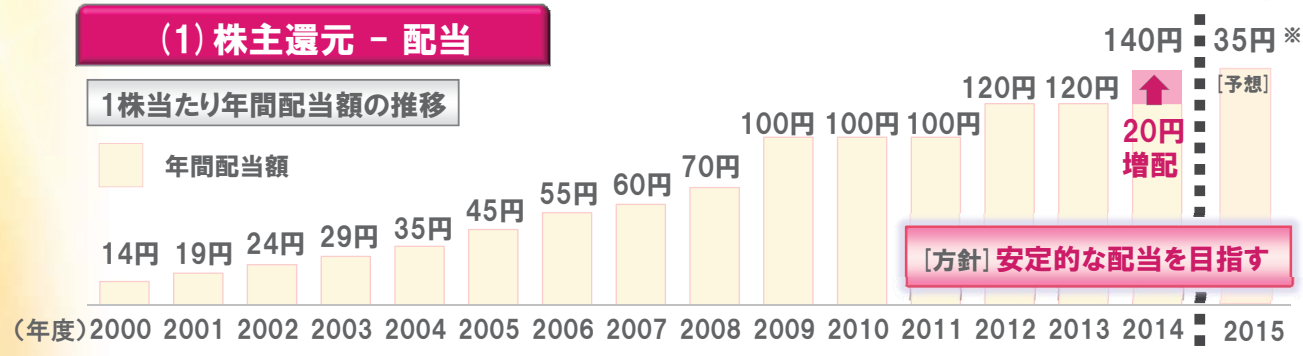
訪日外国人の増加を機会と捉え、着実に対応

2. 財務方針

方針：営業キャッシュ・フローを成長投資に充当し、企業価値の向上を目指す

(1) 株主還元 － 配当

1株当たり年間配当額の推移

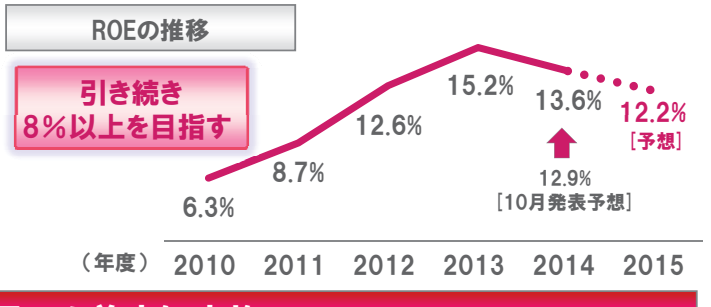


※ 2015年4月1日付で普通株式1株につき4株の株式分割を実施

(2) ROE

今年度は、12.2%となる見込み

ROEの推移



株主還元を着実に実施

Oriental Land Co.,Ltd.

株式会社オリエンタルランド　経理部IRグループ

www.olc.co.jp

注意事項:

本資料は、OLCグループの業績及び今後の経営戦略に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的としたものではございません。

本資料にて開示されているデータは、発表日現在の判断や入手可能な情報に基づくものです。当社グループの事業は、顧客嗜好・社会情勢・経済情勢等の影響を受けやすい特性を持っているため、本資料で述べられている予測や見通しには、不確実性が含まれていることをご承知おきください。

テーマパーク入園者数については単位未満を四捨五入、財務データについては単位未満を切り捨てて記載しています。

本資料の転載はご遠慮ください。